



千葉労働運動

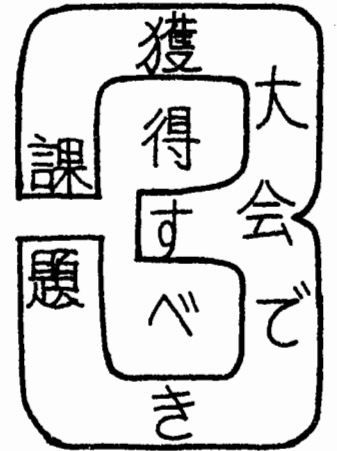
国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

91.9.27 No. 3468

戦争反対を貫く労働運動を

PKO法案にみる戦争の危機



今定期大会で獲得する課題の第三は、日本の侵略戦争(体制)に反対する労働運動を真剣につくりだそう、ということである。

第二次大戦の敗戦以降、今ほど戦争反対の声と運動が求められていたときはないといえます。朝鮮戦争、ベトナム戦争などで米軍の後方支援を行うことで「戦後復興」、高度成長をとげてきた日本は、「湾岸戦争」では九十億ドルの財政支出をもって最大のスポンサーとして、ついに実質参戦するところまできました。そして今臨時国会は、自衛隊の海外派兵法案といえる「PKO協力法案」が提出されるに至りました。

この法案の中では、武器として拳銃・小銃はもとより装甲車までもが含まれていることが明らかになりました(二十四日衆院本会議海部答弁)。またこの法案では、武器の使用(武力の行使は憲法で禁じられている)の場合の判断を(自衛として)個々の隊員に与えられている権限としているが、それすらも「現地指揮官のもとに束ねる形の使用はありうる」と防衛

庁は言いだした。つまり「組織としての武器使用」は憲法に抵触するが、個々が自衛の為に判断した武器使用はかまわない、しかもその時でも現場の指揮官が「個々の判断を束ねる」ことはある、というのである。なんのことはない、自衛隊が部隊として武器使用をしても、それは個々の自衛官の判断を束ねたものだから憲法には抵触しないというのだ。なんたるきべんか。装甲車まで含まれた武器を使うのに、である。

武器の使用の判断が現地指揮官に「束ねられ」、しかも事後に国会報告のみで済ませるといふ中に、軍隊の独走の危機の芽があるのである。一発の銃声によって全面戦争に発展したことは、中国侵略の歴史が示している。法案が提出されてわずか一週間で次々と明らかになる内容は、まさに自衛隊海外派兵法案そのものである。何のハドメもなく、自衛隊にフリーハンドを与えるだけのこの法案をなんとしても廃案にしなければならぬ。

動労千葉はこの間、全国労組交流センターや反戦共同行動委員会の中軸となつて、戦争反対の運動をくりひろげてきた。連合が戦争推進者としての姿を鮮明にする中で、労働運動が戦争反対をたたかうことが求められている今、反戦闘争をたたかいていく労働運動を大きくつくりだそう。

平和維持軍参加自衛隊 武器 組織的使用も

現場で上官判断
「個々の権限束ねる」
防衛庁見解

網渡りの政府見解

武器、装甲車、PKO協力法案

平和維持軍参加自衛隊

6.9%

送迎バス発車時刻
○大網駅発 十二時二十五分 (貸切)
右送迎バスに (下り) 千葉駅発
間に合う列車

十一時三五分	各駅
同 五一分	快速
同 五七分	各駅
(上り) 茂原駅発	
十一時五〇分	快速
安房鴨川駅発	
十時一六分	各駅
上総一の宮駅発	
十二時ちようど各駅	

※大網駅発の定期路線バスは、十一時三〇分
があります。十二時台はありません。
小湊鉄道バス九十九里センター行き、終点
まで、約三十五分。
翌三十日も傍聴にかけつけよう。

定期大会に 全力で参加しよう